

第22回
貨物鉄道論文賞
募集要綱

2022年4月

日本貨物鉄道株式会社
貨物鉄道論文賞運営委員会

1. 目 的

この賞は、効率的で、かつ環境にやさしい輸送機関である貨物鉄道の発展と利用促進のため、一方で、深刻化する労働力不足などの取り巻く環境の変化を敏感にとらえ、「貨物鉄道に関する先進的ならびに独創的な提案・研究」「鉄道を基軸とする総合物流に関する提案・研究」などを顕彰することを目的としています。

また、第 21 回目を契機に、よりわかり易い名称を意識して、「鉄道貨物振興奨励賞」から「貨物鉄道論文賞」に改称しました。

環境負荷が極めて低く、大量の貨物を効率的かつ安定的に輸送できる貨物鉄道の特性を、“未来に向け発揮させていく”こと、より一層、“皆さまから幅広くご応募していただく”こと、を願って改称に至りました。これまで以上に、本賞へのご愛顧をよろしくお願い申し上げます。

2. 応募資格

上記内容に沿ったものであれば、個人・グループ・団体・企業を問わず、どなたでも応募できます。社会人、大学生、専門学校生はもちろんのこと、小・中・高校生の皆さんの応募も歓迎します。

3. 応募テーマ

上記目的に沿った、「貨物鉄道の発展に寄与する提案・研究」、または「貨物鉄道を基軸とする物流全体の生産性向上に資する提案・研究」などについて、幅広い分野がテーマになります。

※「過去の受賞論文（類型別）」、「最優秀受賞テーマ」については、要綱の末尾に掲載されている【参考 1】【参考 2】をご覧ください。

4. 応募方法

- (1) 応募論文は、上記の目的に沿ったもので、日本語で書かれた未発表論文とします。
- (2) 応募論文は、A 4 用紙（40 字×36 行）で 5 枚以上 15 枚以内（図表・写真を除く）とし、ご応募の際は、MS-WORD により作成された原稿ファイルを、下記送付先に電子メールでご送信下さい（CD-ROM による郵送可）。
また、論文レイアウトの原状を保つ意味から、原稿とは別に PDF ファイルを添付いただくか、印刷した論文をご送付下さい。
- (3) 応募論文とは別に、A 4 用紙 1 枚に、論文の要約を 1,000 字以内でまとめ、ご応募の際は、必ず添付して下さい。
- (4) 応募論文と要約の他に、次の事項を A 4 用紙 1 枚に明記した応募用紙を添付して下さい（応募用紙は、当社ホームページからもダウンロードできます）。
①住所、②氏名、③年齢、④連絡先電話番号（日中、連絡可能な電話番号）、⑤勤務先又は学校名、⑥本賞を知ったきっかけ（例：雑誌名、当社ホームページなど）、⑦他薦による場合であれば推薦者名

（注）ご提出をいただきました個人情報に関しましては、賞の選考目的以外には使用しません。

（注）応募方法の条件を満たさないものは審査対象外となりますので、十分ご注意下さい。また、応募いただきました論文は返却いたしませんので、ご了承下さい。

5. 応募締切日 2022年8月31日（水）必着

6. 応募先 電子メール bosyu@jrffreight.co.jp

郵 送 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷五丁目 33 番 8 号

サウスゲート新宿

日本貨物鉄道株式会社 貨物鉄道論文賞運営委員会 事務局

7. 入賞論文の発表並びに表彰式

『貨物鉄道論文賞運営委員会』において厳正な審査を行い、入賞論文を選考します。各応募者には、2022年11月中旬を目途に事務局より、審査結果のご通知を申し上げます。

表彰式は、2022年12月中旬に開催を予定しており、詳細は、事務局より受賞者に、ご連絡をさせていただきます。

8. 表彰および賞金

(1) 最優秀賞（1件）	50万円
(2) 優秀賞（1件）	30万円
(3) 奨励賞（1件）	20万円
(4) 特別賞（1件）	10万円

（注）JR貨物グループ社員からの応募作品については、上記の対象外とし、特に優秀な論文については、「JR貨物社長賞」を贈呈します。

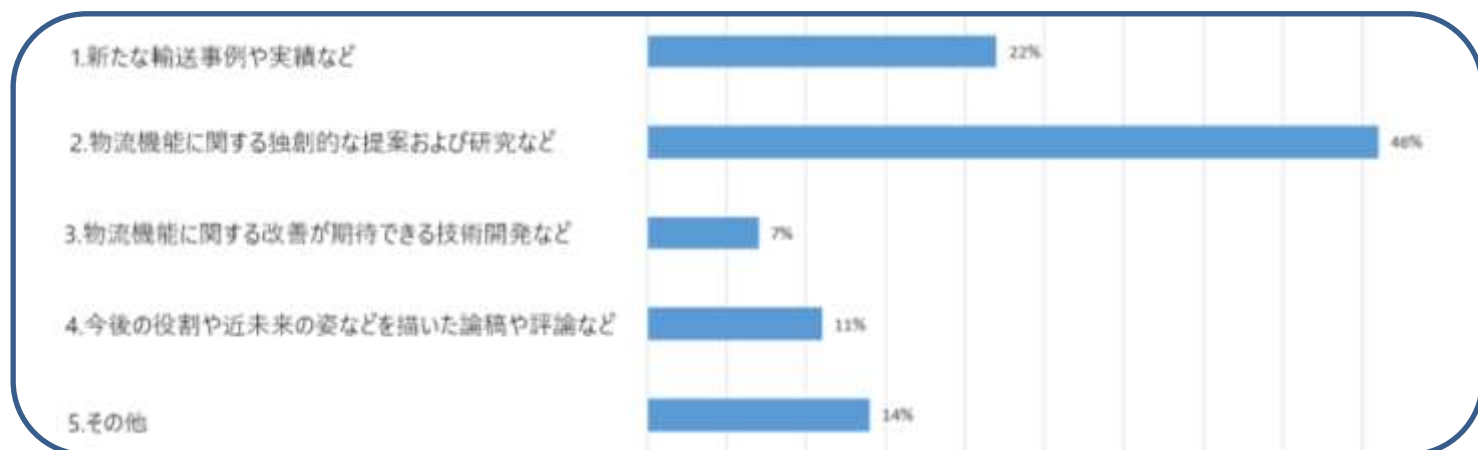
9. 「第14回住田物流奨励賞」への選考対象

応募いただきました論文は、本賞のほか、交通の各分野において、物流の発展のために大きく貢献した著作、論文、研究などを顕彰する「第14回住田物流奨励賞」の選考対象としても審査させていただきます。

10. その他

応募した論文が「審査対象」となった方には、後日、記念品をお贈りいたします。また「受賞論文」は、当社ホームページに掲載するほか、冊子にまとめて配布します。予めご了承ください。

【参考 1】過去の受賞論文（類型別）



【参考 2】過去の最優秀賞受賞テーマ

受賞回	類型別	テーマ	著者
1	2	日本貨物鉄道株式会社の発展に向けた 10 の提案	日本石油輸送(株)原昌一郎様
2	2	製品輸送のモーダルシフトの実践 物流環境取り組み事例	シャープ(株) 伊藤幹雄様
3	1	地球環境に優しいグリーン物流の実践 鉄道貨物によるモーダルシフトの取り組み事例	東北リコー(株) 大友久芳様
4	1	ロジスティクス環境対応における鉄道利用について	キヤノン(株) 山口雅史様
6	1	国際海上コンテナの鉄道による往復輸送と「フレッド・ハブ & スポーク」方式 海上コンテナの鉄道輸送における空コン輸送の効率化	JUKI(株) 荻原克郎様
7	1	十勝産馬鈴薯のクリーン物流モデル実現への道 安心・安全 さらに環境配慮した輸送体系確立に向けた取り組み	北海道士幌町農業協同組合 久保武美様
8	2	お客様と通運事業者と日本貨物鉄道株式会社の発展のための一考察 ノンレール代行便を加味した新たなコンテナネットワークの構築	日本通運(株) 高木貴志様
15	1	専用コンテナによるキュービクルの鉄道輸送の実現	日東工業(株) 水野正博様
16	1	ネスレ日本におけるモーダルシフトの拡大事例と将来への展望	ネスレ日本(株) 尾川太志様
19	1	総合物流企業グループへの発展を目指した「総合物流提案」活動について 当社 国際事業部の取り組みと課題	日本フレートライナー(株) 大嶽王子様
20	1	鉄道輸送におけるモーダルシフトの取り組みと今後の課題について	F-LINE株式会社 鈴木 章二様
21	2	バランスのとれた北海道内物流の構築にむけた貨物鉄道利用促進の再検討 ～この 10 年間の社会情勢の変化を踏まえて～	北海商科大学大学院 永吉 大介様・相浦 宣徳様

《お問い合わせ先》

日本貨物鉄道株式会社 貨物鉄道論文賞運営委員会事務局

電話:050-2017-4071

E-mail : bosyu @jrffreight. co. jp

URL : <http://www.jrffreight. co. jp/>